

## ■ 概況

10/13～10/19のNYMEX・WTI先物市場は、82.82～89.11ドルの範囲で推移した。

10月20日は、中国のコロナ対策の規制緩和観測報道で、景気回復期待感が高まるとともに、対ユーロのドル安で原油先物の割安感も高まり、続伸した。ただ、先進国の利上げ継続観測、米国株式の下落が、上値を抑えた。11月限の終値は前日比0.43ドル高の85.98ドル。

週末21日は、米国の利上げ速度減速観測が浮上、景気減速懸念が和らぎ、続伸した。また、中国のコロナ政策緩和報道も、値上がり要因となった。この日から、取引の中心限月となった12月限の終値は前日比0.54ドル高の85.05ドル。

週明け24日は、発表が延期されていた中国の第3四半期の経済成長率が3.9%増と、年間成長率の政府目標（5.5%）を下回るとみられ、かつ、同国の9月の原油輸入量も前年同月を下回ると見られるとの報道で、中国需要の減速懸念から反落した。12月限の終値は前日比0.47ドル安の84.58ドル。

25日は、米国の利上げ減速観測から、ユーロ・円等に対しドル安が進行し、原油先物の割安感から、反発した。12月限の終値は前日比0.74ドル高の85.32ドル。

26日は、この日発表の米購買者景況指数（PMI）で、4ヵ月連続の50割れを記録、景気減速が見えてきたことで、利上げ減速観測が強まり、続伸した。また、この日発表の先週末時点の米国原油在庫が市場予想を上回る積み増しとなったが、先週の米国原油輸出が欧州向け増加で510万b/dと統計開始以来最高を記録、米国製油所稼働率も89%と高水準を維持していることから、需要の堅調さが示され、値上がり要因となった。12月限の終値は前日比2.59ドル高の87.91ド

ル。

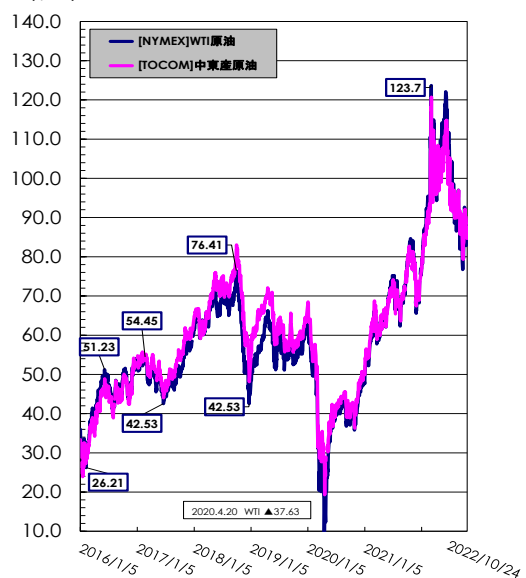
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は、10月13日～19日の間、88.10～92.90ドルの範囲で推移した。10月20日90.40ドル、21日90.70ドル、24日90.10ドル、25日90.90ドル、26日89.70ドルで推移した。

為替は、10月13日～19日の間、146.94～149.22円の範囲で推移した。10月20日149.98円、21日150.26円、24日149.03円、25日149.04円、26日148.23円で推移した。

そのような中で、10月24日時点の価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油も2円の値下がり（18%ベース）であった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は2週ぶりの値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は169.2円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は36.4円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/16～10/22	2,853 ▼ -30	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.0 ▼ -0.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/22	11,493 ▲ 112	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	10/24	84.67 ▼ -3.17	▲ 3.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	10/24	84.58 ▼ -0.88	▲ 0.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	110.59 ▲ 0.98	▲ 36.73
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	99,497 ▲ 2,815	▲ 48,453
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	143.02 ▼ -2.81	▼ -33.15
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/24	150.03 ▼ -0.42	▼ -35.31

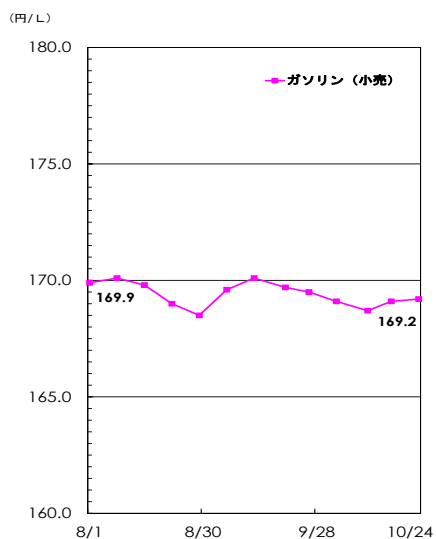
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/16 ~ 10/22	912 ▲ 70	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	748 ▼ -43	▲ -	
	輸出	"	151 ▲ 78	▲ -	
	在庫	10/22	1,605 ▲ 12	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/18 ~ 10/24	74.3 ▼ -0.9	▼ -2.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/18 ~ 10/24	75.7 ▼ -1.1	▼ -0.3
		(TOCOM/中部)	10/24	74.5 ▲ 0.3	▲ 2.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/24	169.2 ▲ 0.1	▲ 1.9	

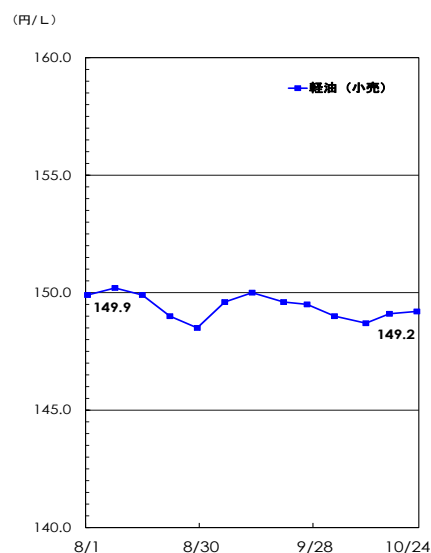
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

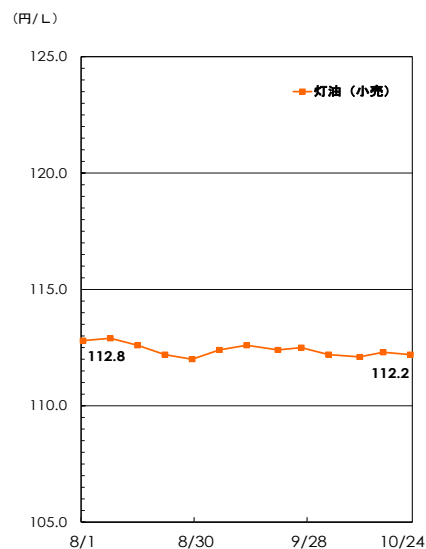
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/16 ~ 10/22	759 ▲ 77	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	590 ▲ 77	▲ -	
	輸出	"	157 ▲ 56	▲ -	
	在庫	10/22	1,293 ▲ 11	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/18 ~ 10/24	76.4 ▼ -0.6	▼ -1.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/18 ~ 10/24	77.7 ▼ -0.4	▼ -0.3
		(TOCOM/中部)	10/24	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/24	149.2 ▲ 0.1	▲ 2.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/16 ~ 10/22	218 ▼ -17	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	86 ▼ -188	▼ -	
	輸出	"	48 → 0	▲ -	
	在庫	10/22	2,354 ▲ 84	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/18 ~ 10/24	77.6 ▼ -0.4	▲ 0.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/18 ~ 10/24	81.2 ▲ 0.2	▲ 5.8
		(TOCOM/中部)	10/24	77.0 ▲ 0.2	▼ -0.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/24	112.2 ▼ -0.1	▲ 6.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(10月20日~26日)の石油先物市場は、利上げ減速観測の高まりで、景気減速懸念が後退したことを主な要因として、概ね堅調に推移した。10月20日の85.98ドルから26日の87.91ドルと推移した。

10月26日発表の21日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間在庫情報によると、原油在庫は260万バレル増と市場予想(100万バレル増)を上回る積み増し、中間留分もわずかに増加したが、ガソリン在庫は減少し、相場への影響は大きくなかった。

EIAによると、10月24日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比10.2セント値下がりの1ガロン3.769ドル(149.2円/ℓ)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比0.2セ

ント値上がりの1ガロン5.341ドル(201.1円/ℓ)と3週連続の値上がりであった。

ペーカーヒューズ社によると、10月21日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比2基増の612基と2週連続の増加となった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年10月16日~10月22日に休止したトッパー能力は35.4万バレル/日で、前週に対して12.9万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は285.3万klと、前週に比べ3.0万kl減少。前年に対しては11.2万klの増加。トッパー稼働率は77.0%と前週に対して0.8ポイントの減少、前年に対しては5.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油で減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/8.3%増、ジェット/6.8%増、灯油/7.2%減、軽油/11.3%増、A重油/12.9%増、C重油/12.4%減。今週のC重油の輸入は4.2万kl(前週比3.6万kl増)。軽油の輸出は15.7万kl(前週比5.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で軽油、C重油が増加、その他の油種で減少した。前年比では灯油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は74.8万kl(対前週5.4%減)と3週振りに減少した。ジェット9.6万kl(対前週0.7%減)、灯油8.6万kl(対前週68.7%減)、軽油59.0万kl(対前週15.0%増)、

A重油18.5万kl(対前週0.3%減)、C重油20.3万kl(対前週6.9%増)。

(単位:千kl)

	今週 (10/16 ~ 10/22)	前週 (10/9 ~ 10/15)	前週比	
ガソリン	748	791	▼ -43	(-5%)
ジェット燃料	96	96	➡ 0	(0%)
灯油	86	274	▼ -188	(-69%)
軽油	590	513	▲ 77	(15%)
A重油	185	186	▼ -1	(-1%)
C重油	203	190	▲ 13	(7%)
合計	1,908	2,050	▼ -142	(-7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月22日時点の在庫は全ての油種で積み増しとなった。前年に対しては灯油、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは160.5万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては3.0万kl多い。

灯油は235.4万kl、前週差8.4万kl増。前年に対しては25.8万kl少ない。

軽油は129.3万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては14.5万kl少ない。

A重油は75.1万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては3.0万kl多い。

C重油は187.5万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては5.4万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (10/22)	前週 (10/15)	前週比	
ガソリン	1,605	1,593	▲ 12	(1%)
ジェット燃料	827	781	▲ 46	(6%)
灯油	2,354	2,270	▲ 84	(4%)
軽油	1,293	1,282	▲ 11	(1%)
A重油	751	731	▲ 20	(3%)
C重油	1,875	1,839	▲ 36	(2%)
合計	8,705	8,496	▲ 209	(2.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月18日～24日のドル建て指標原油価格は前週比値下がりし、為替レートの円安がこれを半分程度相殺したが、元売会社の原油コストは、1.5円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額37.8円を加えたコスト上昇額36.3円に、補助金36.4円が支給されることから、次週(10/27～11/2)の元売会社の実質的な卸価格は0.1円の値

下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月18日～24日の製品スポット市況は、10月11日～17日平均と比べ、先物の灯油の値上がりを除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(10/18～10/24)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/11～10/17)比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/18～10/24)に、前週(10/11～10/17)比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油0.1円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.1円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

(陸上ローリー4地区平均)	今週 (10/18～10/24)	前週 (10/11～10/17)	前週比
レギュラー	74.3	75.2	▼ -0.9
灯油	77.6	78.0	▼ -0.4
軽油	76.4	77.0	▼ -0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

(期近物/終値) [平均]	今週 (10/18～10/24)	前週 (10/11～10/17)	前週比
レギュラー	75.7	76.8	▼ -1.1
灯油	81.2	81.0	▲ 0.2
軽油	77.7	78.1	▼ -0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/18～10/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.9	▼ -1.1	▼ -1.0
灯油	▼ -0.4	▲ 0.2	▼ -0.1
軽油	▼ -0.6	▼ -0.4	▼ -0.5
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

10月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の169.2円、軽油も同0.1円高の149.2円、灯油も18%ベースで同2円安の2,019円(1%ベースでは同0.1円安の112.2円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは23都道府県、横ばいは4県、値下がり20府県だった。全国最安値は宮城県161.6円、その次は埼玉県163.3円であった。他方、最高値は長崎県182.2円だった。最も値上がりしたのは奈良県(前週比1.1円高)、横ばいは高知県等4県、最も値下がりしたのは和歌山県(同1.5円安)だった。

次回調査時(10/31)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/24)	前週 (10/17)	前週比	直近高値
レギュラー	169.2	169.1	▲ 0.1	08/8/4 185.1
灯油	112.2	112.3	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	149.2	149.1	▲ 0.1	08/8/4 167.4

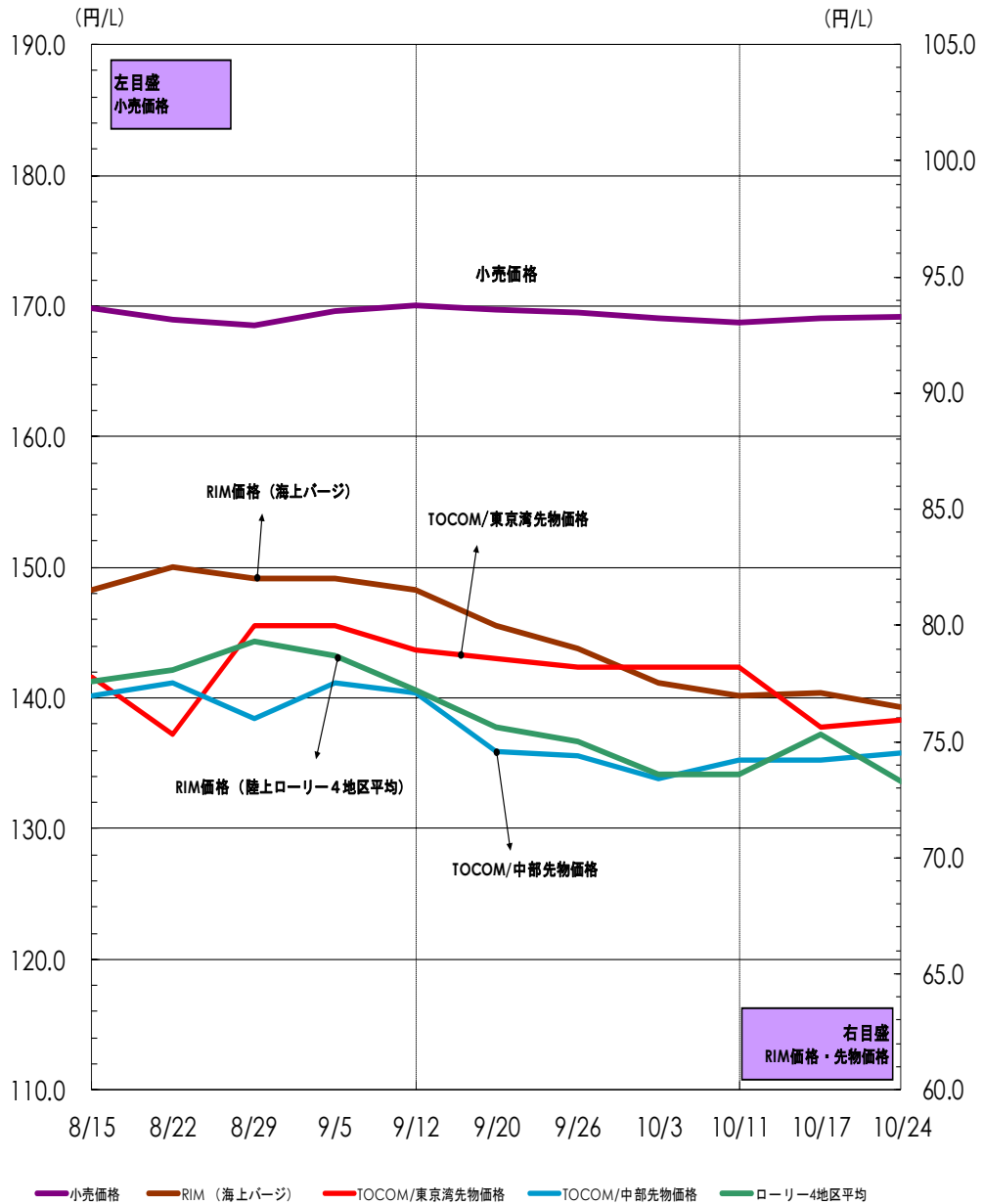
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2022/8/15 ~ 2022/10/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2022第30号)の公表は、11/4(金)14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。